

# 被災地の一日も早い

## 復興を願って

3月11日、午後2時46分頃に発生した東北地方太平洋沖地震により、未曾有の被害が発生しました。

日野町では、被災地の支援や被災者の受け入れなどを組織的に行うため、3月18日午後0時に「日野町災害対策本部体制」を準用し、災害対応にあたっています。

住民の皆さん・団体・企業の中でも、さまざまな支援活動が行われています。その一部を紹介します。



宮古市での給水活動



会津若松市で現地ボランティアの協力を得て荷降ろし作業

## 蒲生氏郷公ゆかりの地 福島県会津若松市へ

3月28日から4月10日までの受付期間に寄せられた、町内の皆さんからの救援物資。仕分け作業は、ボランティアの皆さんが行っていただきました。

4月13日には、蒲生氏郷公ゆかりの地で日野町と交流のある福島県会津若松市へ、救援物資の搬送とボランティア活動を行うために、「会津若松応援隊」(藤澤町長、日野町赤十字奉仕団2名、社会福祉協議会1名、町職員4名)が派遣されました。物資搬送のため、株式会社泉倉庫から2台のトラックを準備していただきました。



4月2日、役場前での出発式

3月23日、L P ガス保安協会八日市支部有志の方(中村幸太郎代表)が、福島県会津若松市に灯油2000ℓを届けられました。その際、避難所の状況を見て、中村代表は、「暖かいお風呂で少しでもくつろいでいただき、元気になってもらえたら」と、これまでの震災ボランティア活動の経験を生かし、避難所への仮設風呂設置を決められました。4月2日に日野町を出発され、避難所3か所にL P ガスの仮設風呂6基を設置されました。



避難所で避難されている方から現状を聞く

## 町内各地で募金活動広がる



日野高校



日野町連合青年会

日野町社会福祉協議会には、多くの方から募金が寄せられ、募金額は11,181,515円となりました（4月20日現在）。日野高等学校生徒会では、しまわりよつ嶋村燎会長発案のもと、3月17日から24日までの8日間、1、2年生の教室と職員室に募金箱を設置されました（募金額70,735円）。日野町連合青年会では、3月19、20、21日の3日間、西大路ユースクラブとともに平和堂日野店とニューライフ日野店前で募金活動を行いました（募金額479,253円）。日野精機株式会社からも義援金が届けられました（募金額100万円）。

また、日野町赤十字奉仕団においても、3月下旬に募金活動に取り組みました（募金額213,149円）。



株式会社ヒロセ



株式会社日映日野

被災地でのし尿処理を支援するため、株式会社ヒロセと株式会社日映日野が、滋賀県環境整備事業協同組合の会員業者として、宮城県で支援活動に従事されました。

## 企業の特徴を生かした支援



株式会社ファーム・滋賀農業公園ブルーメの丘が日野町に避難されている方々へと白桃ゼリー288個を寄贈してくださいました。



日野第2工業団地にある山田ダンボール株式会社が、救援物資を会津若松市へ送るためのダンボール箱100個を、寄贈してくださいました。

## 被災地での活動

日本水道協会からの要請により、3月14日から24日まで3班6名の町職員が岩手県宮古市で給水活動を行いました。竜王町の職員とともにチームを組み、避難所や保育所などへの給水活動に従事しました。

また、議会視察で交流のあった福島県新地町からの要請を受け、日野町と日野町議会が共同で救援物資を準備し、町職員3名が福祉バスで搬送しました。



新地町へ物資搬送

## 被災された方を 受け入れ

町には、被災された22名の方が避難されました。滋賀農業公園ブルーメの丘やひの雇用促進住宅、株式会社奥田工務店が所有されているアパート、民家にご協力をいただき、避難生活を送られています。

生活するための物資については、日野町商工会や日野駅前通り共栄会などにご支援をいただきました。

また、避難されてきた方のうち、日野中学校に2名、西大路小学校に1名が転校され、新学期を迎えられています。